

永富家文書目録

永富家文書調査会編
 東京 吉川弘文館発行 1993. 12
 629 p 22cm 12000円

本書は、兵庫県揖保郡揖保川町新在家の永富家文書の目録である。

江戸時代、代々新在家村の庄屋を務めた永富家には、庄屋としての活動に関わる文書を始めとして、近世から近代に至る二万点余の文書が所蔵されている。その中には、歴代当主の日記である「高関堂日記」のように早くから翻刻されていたものもあるが、大部分は本格的な調査・整理が行われないうままとなっていた。

昭和52年、伊藤久之氏・林屋辰三郎氏らによって永富家文書調査会が結成され、文書の公開を前提とする本格的な調査・整理が行われることとなった。以後16年に亘って作業が進められ、今回、近代文書と私信類を除く一万点余の文書を収録した目録が刊行された（巻末には漢籍の目録も収録されている）。

本目録の大きな特徴は、文書の原表題や書出文言を文書名として用いる方式を採らず、文書の差出者と宛先（宛所）との関係を重視しながら文書を様式別に分類し、文書名に様式分類名称を採用している点である。中世文書で用いられている様式別命名の方法を近世文書の文書名に全面的に適用したものであり、注目すべき試みと言える（なお、原表題も目録の「表題・備考」欄に注記されている）。付表として、文書名と表題とを相互に対照するための「主要文書名・表題・分類対照表」も掲載されており、今後様式別命名を行う際に

大変参考になるものと思われる。

また本目録では、主題別分類や組織別・役職別分類といった一切の分類が行われておらず、文書が収められていた箱別に目録化されている。且つ、文書の配列は年代順ではなく単純に箱の上にあったものから順になっている。この点、利用者にとってはやや使いにくいようにも思われるが、永富家文書の公開・閲覧施設である永富家の管理事務所内には文書を様式別・年代別に並べたカードが用意され、これによって検索が出来るようである。そのほか、解題では永富家文書の調査の経緯と方針、目録の構成などについて詳しく述べられており、目録作成業務に携わるものにとって参考になる点が多い。

但し、本目録では、多くの目録で見られるような文書内容の注記が付けられていないため、目録上では文書内容が掴みにくくなっているように思われる。やはり、近世・近代文書の目録の場合、利用者の便を考え、可能なかぎり文書内容の注記が必要ではないだろうか。

山崎一郎・山口県文書館